

二月、如月。コロナ禍で右往左往の人々をあざ笑うかのように、道の駅から望む加子母の山々は銀色に輝いて自然の雄大さと不変の魅力を感じています。

さて、本稿では株式会社ふるさと企画の経営改善の一端であります「こもればの里」の改革について詳しくお伝えしたいと存じます。

「こもればの里」は東白川村の交流ゾーンとして平成2年から整備され、平成5年には「こもればの館」、平成9年には「レストラン味彩」が建設されました。ふるさと企画が経営し、多くの村民の皆様、都市の皆様に愛され、文字通り村の代表的な交流ゾーンとして、村外からの観光客、村内の小中学生からお年寄りまでの集いと学習の場としてその役割を果たしてまいりました。しかし、レストラン味彩を含め交流事業部門はこの数年間、社員の必死の努力にもかかわらず、売り上げが減少し不採算部門となってきておりました。そこへ昨年2月からのコロナ感染症の影響を受け、主力であった都市からの団体研修、体験観光が皆無となり大きな赤字を計上するに至っておりました。ふるさと企画の主力製品である「とまとのまんま」も原料不足により売上減少となってきており、このままでは会社の経営が成り立たなくなるのは歴然としてまいりました。この対策として昨年6月から経営改革に着手し、村からの1千万円近い資金提供を行なうと共に経営改革を実施してきたところであります。この改革の一つが不採算部門である交流事業部門の切り離しであり、村営化でありました。

昨年10月からメニューの改善などに工夫を凝らし、行政の担当課も必死に支援してまいりましたが実績は上がらず、コロナ終息の兆しも見えない中、このままでは来期以降大幅な資金投入をしなくては営業できなくなるのが容易に予想でき、閉鎖か継続かという苦渋の決断をしなくてはならないところまで来ておりました。

そうした状況下で昨夏以降、改革と並行して「こもればの館」「レストラン味彩」の民営化の道を探ってきておりましたが、現在、有限会社新世紀工房と業務提携をし、五加でキクラゲの生産を行っていただいているエネテックホールディングス株式会社様がレストラン事業に進出されるというお話を伺いました。一宮市内で人気繁盛店を経営されており、その2号店を計画されているということで、味彩の運営について御提案申し上げたところ東白川村の持つ魅力を大いに評価していただき、村の活性化、集客、雇用への支援をいただくことが出来ました。

村議会にも説明し賛同いただけたので、こもればの館も含む交流事業全体をエネテックホールディングスグループに経営していただくこと(民営化)を決意いたしました。

株式会社エネテック様はレストラン事業を柱にこもればの館周辺の再利活用も視野に入れて構想しておられます。

その第一弾として、レストラン味彩を“クローチェ東白川店(仮称)”として全面改装し、5月にリニューアルオープンできるよう建物と土地の賃貸借契約、店舗改装の着手、現在の社員の雇用の継続、こもればの館の営業停止などの内容で業務提携の覚書を交しました。

私としても、創立以来携わってきた会社であり、コロナ感染症という未曾有の危機に面し、この第三セクター 株式会社ふるさと企画と「こもればの里」が東白川村にとって真に必要な事業を展開し、当初計画の目的を見失うことなく立ち直らせるのが私の責任であると心を奮い立たせております。どうぞ御理解と御協力をお願い致します。

令和3年2月

東白川村長 今井俊郎